

第5回 新AI戦略検討会議 議事要旨

1. 日 時 令和4年2月24日(木) 14:00-15:20

2. 場 所 オンライン会議

3. 出席者※敬称略

【新AI戦略検討会議】

座長

北野 宏明 株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長
(AI戦略実行会議 構成員)

構成員

尾原 和啓 フューチャリスト、藤原投資顧問 書生
盛合 志帆 国立研究開発法人情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 研究所長
ルゾンカ 典子 コスモエネルギーホールディングス株式会社 執行役員 コーポレートDX戦略部
担当

【関係省庁】

平本 健二 デジタル庁データ戦略統括
大久保 佑美 金融庁総合政策局総務課係長
新田 隆夫 総務省国際戦略局技術政策課長
川口 悦生 文部科学省研究振興局参事官 (情報担当)
高江 慎一 厚生労働省大臣官房厚生科学課研究企画官
松本 賢英 農林水産省大臣官房政策課技術政策室長
木村 晃太郎 農林水産省大臣官房政策課技術政策室課長補佐
湊谷 陽太 農林水産省大臣官房政策課技術政策室
高田 和幸 経済産業省産業技術環境局研究開発課産業技術プロジェクト推進室長
富樫 達也 経済産業省産業技術環境局研究開発課産業技術プロジェクト推進室室長補佐
片山 弘士 経済産業省商務情報政策局政策企画委員
森久保 司 国土交通省臣官房技術調査課環境安全・地理空間情報技術調整官
伊崎 朋康 国土交通省総合政策局技術政策課 技術開発推進室長
加藤 学 環境省大臣官房総合政策課環境研究技術室室長

【事務局】

井上 諭一 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長補・内閣官房内閣審議官
根本 朋生 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官
塚本 武雄 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局上席政策調査員

4. 議題

(1)新たなA I 戦略について

(2)その他

5. 配布資料

資料1 新たなA I 戦略の概要（案）（事務局説明資料）

資料2 A I 戦略 2022（素案）（事務局説明資料）

資料3 A I 戦略 2022 別紙（素案）（事務局説明資料）

参考資料1 新A I 戦略検討会議（第4回）議事要旨

6. 議事要旨

(1) 新たなA I 戦略について

事務局から資料1、2、3に基づき、新しいA I 戦略の概要、本文及び別紙について説明。その後に意見交換となった。意見交換においては、次のような趣旨の発言があった。最終的に、本日の意見を反映したバージョンを事務局が作成し、改めて構成員に照会することとなった。

- ・この会議で議論したことの概略・方向性が、最終的にはかなり明確に反映された。
- ・別紙として付されている取組の一覧中、「グローバル・ネットワークの強化による National Resilience の強化」については、現時点では具体的な取組が明記されずに「調整中」となっている。こちらでは、例えば India Stack のような取組との連携のことなどが期待される。
- ・それぞれの取組については、各省とも、今の取組を戦略の方向性に寄せていくかたちで考えられていると思う。しかし、根底にある戦略目標を念頭に考えていただければ、もっと迫力がある内容にまとまってくるだろう。
- ・A I に関する思い込みを捨てるという点、ハーベストループをきちんと回すといった点を、社会実装の中でどれだけしっかりと根づかせていけるかが一つのポイントである。
- ・国内データ基盤のデータ経済圏構築をどこまでどう進めるかの方向性は示した方がいいと思う。
- ・責任あるA I の話をするとき、日本であれば Explainable という話に向かいがちだが、欧米の文脈だと Explainable と Ethical の話のバランスのような話となる。特に Ethical の中にある Inclusiveness や Fairness は、日本国内ではあまり意識されていない領域である。このあたりについては、マイクロソフトのサイト (<https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/cloud-adoption-framework/innovate/best-practices/trusted-ai>) にてよく整理されている。日本でも Ethical や Inclusive について検討にいれる必要がないか？
- ・デザインの段階で Responsible を織り込んでいくといったような流れの話もあり得る。
- ・Inclusion であれば、一つのトピックとして、日本にいる多くの外国人に関する問題がある。N I C T のシステムも含めて、マルチリンガルサポート等ができたり、コロナ禍を契機としたライフスタイルの多様化を支えたりすることができるはずだが、実際にそれを展開するということまでアクションとして落とし込めていない。しっかりと正面から捉える議論をもう一回きちんとやらなければいけないという気はする。
- ・Inclusion については、A I によってサポートされる範囲が広がる中で、排除される人たちを減らす観点と、もう1つ、アルゴリズムの中で不当な扱いを受けてしまう可能性を排除していく Fairness という観点があり、

両者は別もの。そこも含めて少なくとも検討領域に入っているべきであろう。

- ・(事務局からの補足説明として) 責任あるA Iの関係では、G 7から派生した、Global Partnership on AI (GPAI) という会議体がある。これが今年には日本で開催される見込みになっているが、この中では「説明可能なA I」だけではなく、「責任あるA I」の全般、どちらかという欧州寄りの Ethical な事項も含めた議論が行われる見込み。お手元の案は、各省庁が予算による施策を中心に挙げているが、実際にはこれから相当程度に「責任あるA I」の議論がなされる見込みである。
- ・(サイバーセキュリティの観点では、いろいろなアラートの効率の良いキュレーションや、真に大事なアラートを探し、優先順位付けをするトリアージが非常に重要であり、そうしたところのA Iの活用も重要であるのに、本日の資料からはサイバーセキュリティのためにA Iを活用する観点が漏れているのではないかと問いかけて、事務局から) サイバーセキュリティのためのA Iの活用については、現行戦略の中に含まれている。現在の案では、後ろの方に分かれて記されているので、より強調するために前半の関係箇所を含めるかたちで修正案を作成する。
- ・今回の戦略がまとめられた後、これから企業がどのように立ち回っていくべきか、各会社が動いている中、これらをどうオーケストレーションしていくかというところが、一つの課題となりそう。現状ばらばらに動いているところをうまくオーケストレーションできるといいと考えている。
- ・3 D都市モデル整備・活用・オープンデータの推進は、津波、地震等それぞれの場合でどういう形で動いていくのかというところのオーケストレーションの仕方がかなり肝になりそう。この点で国の方で考えている部分があるのであれば、そこがうまくつながるといいと思う。今やらなければという危機感を持ってもらうにはどうしたらいいか、自問自答な部分もあるが、かなり具体的に進めていきたいなという危機感を感じている。
- ・3 Dの都市モデルが構築されないような地域が多く被災する。地方の自治体も結構動いているので、これらもうまく絡められないか。また、あまり取組が進まないような自治体も多いが、そうしたところをどう救っていくかも課題。
- ・(事務局からの補足説明として) デジタル・ツイン関係の取組については、内閣府防災の未来構想チームの検討等でもその必要性が強く認識されてきており、デジタル・ツインをどうするかというのは非常に大きな課題。どこの省庁がどう運用していくのか、どうやって集約していくのかという議論が今まさに重要となっている。内閣府では次期のS I Pの中でそのデジタル・ツインの構築を一つの領域として挙げており、この中で関係省庁に加わっていただき、うまく集約をして、実際使えるものを構築し、将来的な運用についても検討していくことが一番有力な進め方となりそうである。
- ・所管の省庁が違ってくるのはあり得る話だが、データのインターオペラビリティや統合運用ができるかがかなり重要なポイント。デジタル庁のような、ちゃんとしたアーキテクトが入って設計した方がよい。

(2)その他

【今後の段取りについて】

- ・本日の議論による修正(サイバーセキュリティのためのA Iの利用に関する記述)を含めた案を改めて事務局から提示するので、ご確認いただくこととする。

以上